

北陸地方のキリスト教保育史 —J.K.U.年報からの翻訳と解説(7)—

The History of Christian Early Childcare and Education of Hokuriku District
—A Translation and Interpretation from the J.K.U. Annual Report (7)—

山 森 泉*

要旨

「北陸地方のキリスト教保育史—J.K.U.年報からの翻訳と解説(6)—」に続き、本稿では『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION』全6巻に記された北陸地方の幼稚園について、関連する資料を追記した。特に福井県の幼稚園に関連した資料を拾い上げ、J.K.U.に記載されながら現存しない幼稚園である美光幼稚園と、J.K.U.に記されていないキリスト教主義幼稚園である愛光幼稚園を中心に、閉園に至る状況・仏教系幼稚園の設立の影響について考察を試みた。その結果、福井県は石川県・富山県より数年早く影響を受けたことが明らかとなった。なお、この箇所については、既に児玉が聞き書きの形で執筆するとともに、『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION』3巻までを訳出しており、本稿はその追補版に当たる。

キーワード：J.K.U.(The Japan Kindergarten Union)／

北陸地方キリスト教幼稚園(The Christian Kindergarten of Hokuriku District)／

福井県(Fukui Prefecture)／美光幼稚園(Biko Kindergarten)

1. はじめに

児玉と筆者は、『ANNUAL REPORT OF THE JAPAN KINDERGARTEN UNION』全6巻の中に記された北陸地方(石川県、富山県、福井県)に関する記事を訳出しながら、当時のキリスト教保育の姿を紹介してきた。筆者は、これまで児玉が執筆した「北陸地方のキリスト教保育史—J.K.U.年報から—」¹を引き継ぎ、『Annual Report of the Japan Kindergarten Union』(J.K.U.の年次報告)の4巻から6巻までの北陸地方(石川、富山、福井)に関する部分を翻訳し、そこに他資料に基づく関連事項からなる「補説」を加える形で、この地方で当時行われていたキリスト教保育の概要を紹介してきた。訳と補説によ

る巻ごとの訳出はひとまず終えたのであるが、当初聞き書きから始まったため、全体の統一を図る必要が生じている。

本稿では、1巻から3巻に関する部分の資料を補足することが中心となるが、明治から大正にかけて時代を映し出している新聞記事や統計書を主な参考資料とし、必要に応じて取り上げた新聞記事に関連する本文の訳を示した。ただ、福井県においては、福井大空襲で多くの物を焼失しており、新聞に関しても年代により保管状態がかなり危うい。図書館を中心に資料のデータベース化やデジタル化は進んでいるが、元となる新聞が散逸しているため欠損日がある。また破損により紙面の一部が欠けているものもある。今回の補遺においても、当時の資料では完全に確認できていない部分があることを予めお断りしておく。

* YAMAMORI, Izumi

北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
日本語表現法

2. 美光幼稚園 (J.K.U.年報に記載されているが、現存しない幼稚園) と愛光幼稚園

1) 美光幼稚園

「実在しないが年報に報告されている園」として、児玉は福井幼稚園と一緒にBiko幼稚園を取り上げている²。J.K.U.の第5号(1911年)の巻末幼稚園リストでは、栄冠幼稚園(1910創立)の下の行に美光幼稚園がある。1911年創立として、園名を「Biko」、Missionは「American Presbyterian」、園長・主任ともに「Miss Takata」(有資格者)で、園児数は25名」と資料から紹介した。これらに加え、児玉は『日本基督教会福井教会百年史』の記載を元に、両園の閉園は1917(大正6年)3月であり、デットワイラー宣教師が福井県内の伝道に専心したため(波線は筆者、以下同じ)と解説している。

一方、『福井県教育百年史』³では、「私立幼稚園の創設」の項で、「私立幼稚園が福井県統計書にはじめてあらわれてくるのは、明治四〇年代になって」、「明治四四年度の統計書に栄冠幼稚園と美光幼稚園が掲載」と記されている。さらに、「この二園はいずれも米国カナダの外人宣教師によって創設された私立幼稚園であって、当初の規模は小さく、その教科目は遊戯・唱歌・談話・手技・恩物等で、このほかに植物細工・粘土細工を加えることもあった」と述べている。続けて、栄冠幼稚園の項では、元在園児である吉田富男氏の回顧録を2ページに渡って引用しつつ、創設当時の状況と保育の内容を紹介している。しかし、美光幼稚園の項では、参考資料が残っていないためかわずか2行であり、

明治四四年一月、福井市佐佳枝中町に幼児及びその家族に対し、キリスト教の教化を目的として設立せられ、園長は高田まさ、助手はデットワイラー夫人であった。その後、大正四年四月に至り、経費多端の故をもって廃園となった。保育料は、開園当時は一人一月三〇銭であったが、後に五〇銭に増額された。と記している。

『福井県百年史』⁴では、私立幼稚園の存在について、「明治末年、僅か二園に過ぎなかった私立幼稚園が、大正一五年には一七園に増設され」、「仏教及びキリスト教の二大教団によって、幼児教育の発展拡充が図られた」ことを特筆している。同書に掲載した一覧表によれば大正期に新設された私立幼稚園は、17園の中9園が大正8年までに創設されている(表1参照)。

大正8年の時点で公立幼稚園は2園しかなく、その後大正15年までに公立幼稚園が6園、私立幼稚園が8園開設されたことを見ても、私立幼稚園が福井県の幼児教育を中心に担ってきたことが明らかである。

仏教系幼稚園の設立については、「仏教王国を誇る地域における仏教系幼稚園は、好条件のもとに発足し」、「福井市における尾上・常葉・鹿苑の各幼稚園の恵まれた施設や広大な園庭、武生市の丈生幼稚園の園舎等をも、十分うなずかれる」と記す。一方、キリスト教系幼稚園の設立については、「米国及びカナダ人が中心であったが、幼児教育としての先進国であり、とくに社会事業として適切であったので各地に幼稚園を創設したほ

表1 大正期に新設された私立幼稚園

創立年	園名	所在地	設置者・備考
大正3年	愛光幼稚園	武生町浪花	キリスト教会 大正5年廃園
大正4年	敦賀幼稚園	敦賀町富貴	坂本泰蔵
大正4年	常葉幼稚園	乾中町	
大正4年	尾上幼稚園	尾上中町	
大正5年	丈生幼稚園	武生町曙	
大正5年	早翠幼稚園	敦賀町神楽	
大正7年	西津幼稚園	雲浜村西津	山田 祐
大正8年	旭幼稚園	大野街東4番	カナダメソジスト宣教師団
大正8年	大野幼稚園	大野町西4番	

* 『福井県百年史』掲載の表より記載内容を一部省略し、大正8年までに限定して作成した。

か各種の文化事業に貢献した」と記している。福井・武生・敦賀・小浜・大野と幼稚園開設地を列記して「幼児教育にふさわしい環境に施設を整備」、「多くの困難を克服して経営に努めた」と述べている。にもかかわらず福井の美光幼稚園が大正四年に、武生の愛光幼稚園が大正五年に廃園となったのは、「キリスト教布教のためであるという誤解のため嫌悪され、入園児の確保が困難となり、経営がなりたらず廃止となった」と、閉園の理由を付している。

開園の年は上記に示すとおり1911（明治44）年となっており、『教会百年史』も同じであるが、閉園の理由については「デットワイラー宣教師が福井県内での伝道に専心したため」、「経費多端の故」「キリスト教布教の誤解による嫌悪・入園児の確保困難」と事情を異にしており、閉園の年も1915（大正4）年4月のこととしている。

上記の違いを確認するために、表2に、『福井県統計書』に記載された記録をもとに美光幼稚園の入園児・在園児の推移を示す⁵。美光幼稚園が統計に出てくるのは明治43年度（明治44年3月31日現在）であり、栄冠幼稚園も同様に明治43年度からである。前年度までの統計書（明治37

年度以降明治43年度）には、市立順化幼稚園と町立小濱幼稚園の2園だけが記載されている。

J.K.U. 7号（1913（大正2）年）報告⁶では、秋学期に43名の園児と2名の教師がいたこと、春学期の開始時には61名まで増えたことが記されている。下記の表に当てはめると、網掛けの部分に当たり、明治45（1912）年から統計書に記載がない1913（大正2）年の部分となる。入園児数も33名と増加し、組数も2組から3組に増やした時期である。にもかかわらず、翌1914（大正3）年には在園児数が半減し、さらに翌年の1915（大正4）年には、募集停止をしている。

公的な統計記録と経営母体である教会（宣教師団）との見解の相違について、その立場上説明が異なるのはやむを得ない。客観的に見て最も明白なことは、他の新設幼稚園の影響により園児が減少したことである⁷。美光幼稚園と栄冠幼稚園が開園するまでは、福井市内の幼稚園は市立順化幼稚園1園のみであり、在園児は、1908（明治37）年度から1914（大正3）年度までは70名から80名の間で推移していた。しかし、1914（大正3）年度には順化幼稚園の在園児は104名、入園児も110名と20名以上増加している。美光幼稚園が廃

表2 統計書に記された美光幼稚園

名称：美光幼稚園 位置：福井市佐佳枝中町						
年度*1 (西暦)	組数	保母	幼児	年度内 入園数	年度内 保育満 期	栄冠 *2
明治43 (1910)	2	1	24	24	5	23
明治44 (1911)	2	1 + 1 *3	29	29	6	24
明治45 (1912)	3	2	40	23	9	28
大正2 (1913)	統計表には園名がなく、(順化・小濱・栄冠の3園のみ) *4					39
大正3 (1914)	2	1	19	33	4	44
大正4 (1915)	2	2	13	—	13	36
大正5 (1916)	以降、記載なし（閉園）					37

*1：統計ではその年度最終日の人数を記しているため、明治43年度であれば明治44年3月31日現在の園児数等を表している。

*2：比較として、統計書に記されている栄冠幼稚園の「幼児」の人数を記す。

*3：+1は助手であることを示す。（1+1は、保母1名、助手1名である。以下同じ）

*4：統計書には美光幼稚園が記載されず、人数の把握ができない。

園を決めた1915（大正4）年度（1916（大正5）年3月31日）の記載でも、順化幼稚園は100名が入園して90名が在園するなど勢いがあり、美光幼稚園はわずか13名しかいなかった。市立の順化幼稚園と私立美光幼稚園はともに福井市内の佐佳枝中町にあり、市立幼稚園への流れはどうにもできなかつたと思われる。これは、宣教師が伝道に専心したからという理由だけでは納得しがたい状況である。また、「経費多端」という廃園理由に関連して、入園料を30銭から50銭に増額したことの影響も大きいであろう。後述する尾上幼稚園は1916（大正5）年まで30銭、常葉幼稚園は1915（大正4）年まで30銭、1916（大正5）年から1918（大正7）年まで40銭、美光幼稚園廃園後の大正8年に設立された大野幼稚園は保育料が月額30銭であり、他の幼稚園に比して高い保育料も入園児減少の理由の一つ⁸と考えられる。

2) 愛光幼稚園

愛光幼稚園は『福井県百年史』に記載されている「大正期に新設された私立幼稚園一覧表⁹」17園の筆頭にある。しかし、前述したとおりすぐ廃園になったため、『福井県統計書』には大正3年度の記載があるのみである。

表3 統計書に記された愛光幼稚園

名称：愛光幼稚園		位置：南條郡武生町			
年度 (西暦)	組数	保母	幼児	年度内 入園数	年度内保 育終了者
大正3 (1914)	1	1	17	45	16
大正4 (1915)	以降、記載なし(閉園)				

美光幼稚園が閉園した翌大正6年には、福井市内にある新設の仏教系の私立常葉幼稚園（真宗大谷派 入園100名）と尾上幼稚園（本願寺西別院 入園57名）が統計書に記載されている。また、尾上幼稚園の開園については新聞でも取り上げられており（図3）、地元に着した寺院の経営す

る規模の大きな幼稚園に園児が集まり、キリスト教幼稚園から仏教系幼稚園への移動が激しかったことが窺える。『福井県教育百年史』では、1917（大正6）年の「幼稚園概況」の項で、次のように記している。

～敦賀町ニ於テ私立敦賀幼稚園ハ大正五年十二月三十一日限廢園シタルモ同年九月一日ヨリ同町良楽寺境内ニ同寺住職ノ設立ニ係ル私立早翠幼稚園ヲ新設アリシト尚武生町ニ於ケル私立愛光幼稚園ハ基督教ニ属スル故ヲ以テ入園者少クシテ大正五年四月一日ヨリ休園セル代リニ同町引接寺境内ニ新ニ私立丈生幼稚園ニ新設アリ～

また、『福井県統計書』を追っていくと、名前が消える園と新たに記載される園がある。それを同じ所在地ごとにまとめると下記（表4）のようになる。

つまり、キリスト教幼稚園が廃園・休園した後を受けて仏教系幼稚園が幼児教育を担っていったとなっているが、入園児数（下記表4）を見ると、単にキリスト教幼稚園在園児や入園予定児が仏教系幼稚園に入園先を変更したというだけではない。キリスト教幼稚園では入園をためらっていた多数の保護者が、「仏教系幼稚園である」ことにより幼児教育を受けさせようとしたことが読み取れる。

そのような状況の中で、常葉幼稚園と同じ佐佳枝中町内にある栄冠幼稚園は、1916（大正5）年度は22名の入園児、37名の在園児があり、前年の在園児35名、入園児16名と比してさほど変化はない。安定の要因は、経営母体である教団の違いによると考えられないだろうか（例えば、カナダメソジストの幼稚園教師は家庭訪問を熱心に行ってきたが、母の会の活動として外国の料理や裁縫などの講習などを行い、母親たちの関心を集めることに力を注ぎ、またそれが有効であった¹⁰）。『福井市幼稚園史』¹¹に、現存幼稚園として、順化幼稚園、尾上幼稚園、常葉幼稚園、栄冠幼稚園、鹿苑幼稚園が記され、既存幼稚園として市立宝永幼稚園（明治37年廃園）、市立春山幼稚園（明治

表4 所在地別幼稚園の推移

所在地	大正4年3月31日		大正5年3月31日		大正6年3月31日	
	愛校幼稚園	幼児	記載なし	幼児	丈生幼稚園	幼児
武生	愛校幼稚園	45	記載なし	—	丈生幼稚園	136
敦賀	記載なし	—	敦賀(富貴)幼稚園	18	早翠幼稚園	93

35年廃止)、私立美光幼稚園(大正4年廃園)が挙げられている。栄冠幼稚園の年中行事には、「毎月1回母の会(父の出席も切に望む)及び在園児の家庭訪問。毎年1回保育終了者の同窓会。不定期に保母と保護者との親睦会。」とある。他の現存幼稚園では、常葉幼稚園に「保護者会」とあるのみで、園児以外を対象とする家庭と結びつけるような会合は行われていない。一方、栄冠幼稚園は家庭との結びつきを重要視していることが伺える。また、そのことが園児は少数で推移しながらも存続し続けた一つの要因と考えられる。なお、美光幼稚園でも母の会は月2回開かれており、出席者は少なかったが、毎回増えていったことが、第7号(1913(大正2)年)のJ.K.U.報告にある¹²⁾。

3) 幼稚園開園の記事より

美光幼稚園開設に関する記事は、福井新聞明治43年12月28日に以下のように掲載されている(図1参照)。(本文中の記号は、以下のとおり。

□: 判読不能 _ : 空白 字: 一部推測を含む。)

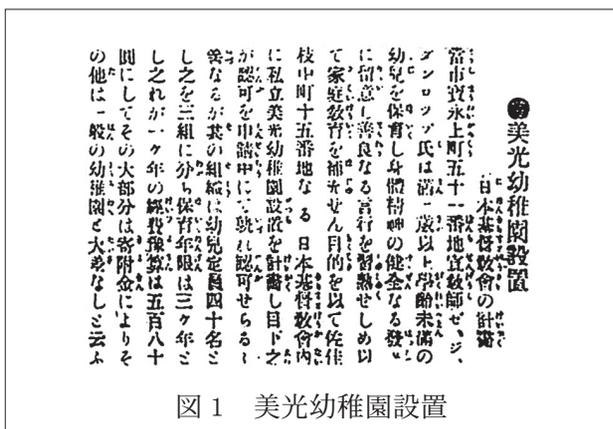


図1 美光幼稚園設置

●美光幼稚園設置

日本基督教會の計畫
當市寶永上町五十一番地宣教師ゼ、ジ、ダンロップ氏は満口歳以上學齡未滿の幼兒を保育し身體精神の健全なる發口に留意し善良なる言行を習熟せしめ以て家庭教育を補充せん目的を以て佐佳枝中町十五番地なる日本キリスト教會内に私立美光幼稚園設置を計畫し目下之が認可を申請中にて孰れ認可せらるゝ筈なるが其の組織に幼兒定員四十名とし之を三組に分ち保育年限は三ヶ年とし之が1ヶ年の經費豫算は五百八十円

にしてその大部分は寄附金によりその他は一般の幼稚園と大差なしと云ふ

また、仏教系幼稚園の開園についての記事は、以下に記すとおりである。

【福井新聞 大正五年九月十六日】(図2参照)

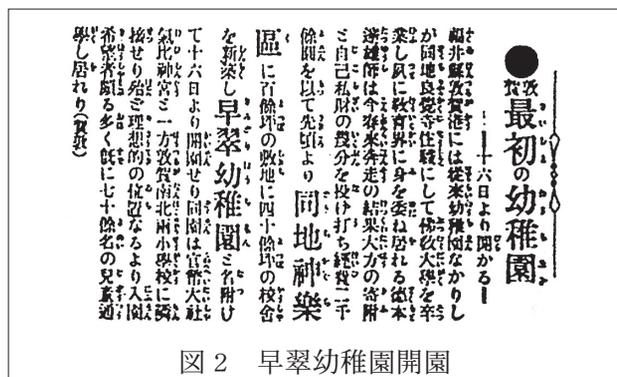


図2 早翠幼稚園開園

●敦賀最初の幼稚園—十六日より開かる—
福井県敦賀港には従来幼稚園なかりしが同地良覚寺住職にして佛教大學を卒業し教育界に身を委ね居れる徳本達雄師は今春来奔走の結果大方の寄附と自己私財の幾分を投げ打ち經費二千餘円を以て先頃より同地神楽区に百餘坪の敷地に四十餘坪の校舎を新築し早翠幼稚園と名附けて十六日より開園せり同園は官弊大社氣比神宮と一方敦賀南北両小學校に隣接せり殆ど理想的の位置なるより入園希望者頗る多くすでに七十餘名の兒童通學し居れり

【大阪朝日新聞 福井県版 大正五年六月廿五日】(図3)

●丈生幼稚園開始

武生町引接寺住職山田智善師の經營に係る丈生幼稚園は二十五日午前開園式を舉行した七月一日より授業を開始する筈(福井電話)

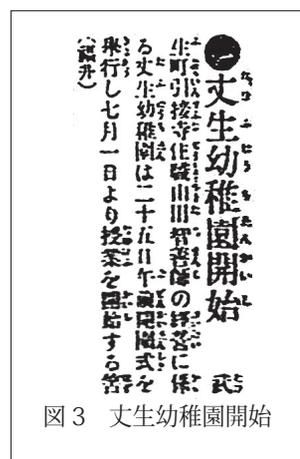


図3 丈生幼稚園開始

【大阪朝日新聞 福井県版 大正六年六月廿九日】
(図4)

●尾上幼稚園開
院記念式
福井市西口院の
経営せる尾上幼
稚園は七月一日
午前九時より第
二回開院記念式
を舉行し榮冠、
常葉、順化及敦
賀の早翠、武生

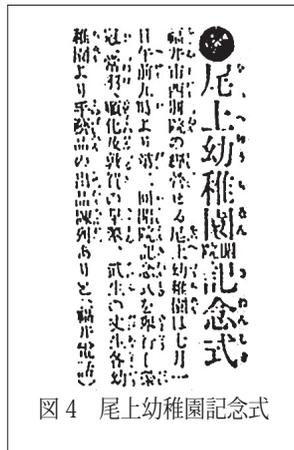


図4 尾上幼稚園記念式

の丈生各幼稚園より手藝品の出品陳列あり
と。(福井電話)

*尾上幼稚園記念式には、榮冠幼稚園を含め市
内の幼稚園から手芸作品が提供され、展示さ
れていたことが記されており、幼稚園同士の
交流があったことがわかる。

参考として、大正時代の仏教系幼稚園児の推移
を以下に記す。(表5、表6、表7参照)

【参考 仏教系幼稚園】

表5 統計書に記された尾上幼稚園

名称：尾上幼稚園（本派本願寺福井別院）					
位置：福井市尾上中町					
年度 (西暦)	組数	保母	幼児	年度内 入園数	年度内 保育終 了者
大正3 (1914)	記載なし				
大正4 (1915)	2	2	106	106	86
大正5 (1916)	2	3	73	57	59
大正6 (1917)	2	2	63	51	40
大正7 (1918)	3	3	71	60	71
大正8 (1919)	3	3	81	16	81
大正9 (1920)	3	3	101	107	76
大正10 (1921)	3	4	87	86	68
大正11 (1922)	3	4	88	95	69
大正12 (1923)	3	4	90	103	90
大正13 (1924)	3	3	86	95	64
大正14 (1925)	3	4	89	96	62
大正15 (1926)	4	1+ 3	116	90	82

表6 統計書に記された常葉幼稚園

名称：常葉幼稚園（真宗大谷派福井別院）						
位置：福井市宝永上町						
年度 (西暦)	組数	保母	幼児	年度内 入園数	年度内 保育終 了者	備考
大正3 (1914)	記載なし					
大正4 (1915)	2	2	91	99	40	
大正5 (1916)	2	3	96	100	67	
大正6 (1917)	2	3	84	118	84	
大正7 (1918)	3	3	77	103		(男児の記載なし) 女6
大正8 (1919)	3	3	100	102	78	常磐
大正9 (1920)	3	3	72	94	69	
大正10 (1921)	3	3	80	74	80	
大正11 (1922)	3	3	57	74	33	
大正12 (1923)	3	3	45	133	25	
大正13 (1924)	3	3	74	91	51	
大正14 (1925)	3	3	84	61	51	
大正15 (1926)	3	1+ 2	84	81	59	

表7 統計書に記された丈生幼稚園

丈生幼稚園 (引接寺)		位置：武生町曙				
年度 (西暦)	組数	保母	幼児	年度内 入園数	年度内 保育終 了者	備考
大正 5 (1916)	3	2+ 3	136	90	91	
大正 6 (1917)	3	2+ 2	168	115	77	
大正 7 (1918)	4	4	160	116	116	
大正 8 (1919)	4	2+ 2	192	146	122	
大正 9 (1920)	4	2+ 2	190	145	113	
大正 10 (1921)	4	2+ 2	171	148	112	
大正 11 (1922)	4	2+ 2	163	141	116	
大正 12 (1923)	4	2+ 2	171	146	112	
大正 13 (1924)	4	2+ 2	160	150	118	
大正 14 (1925)	4	3+ 1	164	120	119	
大正 15 (1926)	6	3+ 3	240	180	168	分園

以上の資料も参考にして仏教系幼稚園とキリスト教幼稚園の動きを時期と合わせて見ていくと、美光幼稚園、愛光幼稚園の設立から廃園に至る明治時代末から大正5年には、石川県と富山県においては仏教勢力はまだ幼稚園開設に至っていなかった。この時期のJ.K.U.年報で報告されている仏教系関連事項は2件ある。一つは7号(1913(大正2)年)に富山県の青葉幼稚園で、仏教徒の最も多い地域であるが試練を全部乗り越えたというもの、もう1件は8号(1914(大正3)年)の石川県の七尾幼稚園で、仏教徒が多い地域での幼稚園に開園前は関心がなかった家庭も、好意的に受け入れてくれたことの報告である。次にこの類の報告があるのは6年後で、14号(1920(大正9)年)から19号(1925(大正14)年)にかけて8件ある。共通するのは、仏教系幼稚園の反対があったことや仏教系幼稚園の開園により園児が減少したことである。こうしてみると、福井県のほうが6~7年早く仏教系幼稚園が開設されており、それによる園児減少も同様に早く影響を受けていたことが明らかで、地域による差を見て取ることができる。

3. 栄冠幼稚園と他の幼稚園

1908(明治41)年の開園以来、栄冠幼稚園は総数では多くないものの安定した入園児を得て、キリスト教保育を行ってきた。『福井県統計書』には、認可された1911(明治44)年3月31日時点の統計表から美光幼稚園とともに記載される。このときの幼稚園は、市立順化幼稚園(園児80名)、町立小濱幼稚園(園児72名)、私立栄冠幼稚園(園児23名)、私立美光幼稚園(園児24名)の4幼稚園である。

1) クリスマス行事

栄冠幼稚園は、福井市宝永上町のメソジスト教会を仮園舎として保育を行っていた。1910(明治43)年のクリスマスには幼稚園園児らも参加したことが、福井新聞で紹介されている。

【福井新聞 明治43年12月30日】(注：本文には句読点がなく、読解の便宜上筆者が付したものである)

●最終の生誕祭

一昨夜は新明前通りのメソジスト教會で當市に於ける最終の生誕祭が開かれた。時間勵行の六時半に開会、渡辺牧師は日曜學校は(ママ)対し希望を述べ、直ちに演組に移つる(ママ)。▲此教會の日曜學校生徒は場所慣れて居るものか、元氣よく見られた。ソシテ幼稚園生徒の廻らぬ口付で□つた祝文や対話や唱歌が聴取り悪くい處もあつたが、無邪気で何處までも可愛らしかつた。▲追々番組も終ると、次に日曜學校の生徒に対して夫々褒美が授けられる。續て、信者の某が登壇して、元氣ある語調で生誕祭の思い出に就て演説を為し終つて、ヘニガー氏夫婦の英語唱歌が獨得に響いた。▲次ぎは某令嬢の弾琴があつて、これが済むと、山なす贈り物が生徒達や信者の家族に分配された。後で聞くと、二百包もあつたと云ふと。▲斯くして、最後の讚美歌六十二番も唱はれ祝禱があつて、時の針が十時五分前を指す頃全く済んだ。夕刻から夜景色なりしにも拘はらず、會衆が堂に溢るばかりの盛況を呈したのは、定めて教會でも満足であつたらう。

幼稚園教育が始められてまだ2年ほどの頃で、幼稚園児は20名ほどであった。記事に見られるよ

うにたどたどしさの残る聖句暗唱や讃美歌の披露であったことがわかる。

【大阪朝日新聞 大正14年12月22日】

写真付きのクリスマス記事

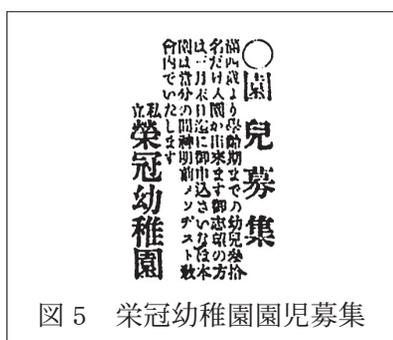
クリスマスが近づいた福井市内では榮冠幼稚園が二十二日午後一時から嬉しいづくめのプログラムで唱歌やお祈り、律動遊戯などを、神明社前のメソヂスト教会、日曜学校は二十五日の午後六時半から對話、絵噺、獨唱のプログラムで贈り物などあり、楽しい一日を過ごすはずー写真¹³はクリスマスデコレーションー

なお、大正14年の12月は、榮冠幼稚園・メソヂスト教会とは別に2つのクリスマス関連記事が新聞に掲載された¹⁴。

2) 園舎焼失

大正6年の冬、榮冠幼稚園は園舎を焼失する。J.K.U.にはこの報告はなされていないが、『福井県教育百年史』の同年の幼稚園概要に、「福井市立榮冠幼稚園ハ大正六年二月二日¹⁵失火全焼シタルニ依リ一時基督教会堂内ニ於テ授業スルノ止ムナキニ至リ直ニ新築ニ着手セリ¹⁶」とある。そのため、この年の園児募集は次のような新聞募集広告となった。

【福井新聞 大正六年三月十六日】(図5)



○園児募集

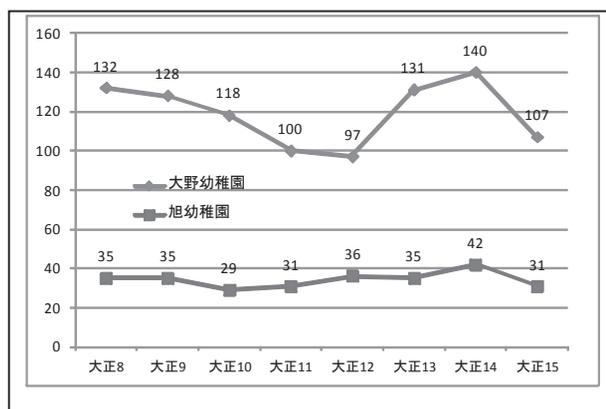
満四歳より學齡期までの幼兒拾名だけ入園が出来ます御志望の方は三月末日迄に御申込さい。なほ本園は當分の間神明前メソヂスト教會内でいたします
私立榮冠幼稚園

3) 旭幼稚園と大野幼稚園

J.K.U.第15号(1921(大正10)年)には、C.P.ホームスが福井県の榮冠幼稚園、丸岡の緑幼稚園、敦賀幼稚園、大野の旭幼稚園についての報告を行った¹⁷。旭幼稚園はJ.K.U.年報の巻末リストでは1918(大正7)年創立とされているが、前述の『福井県百年史』所収の一覧表には大正8年創設の幼稚園として記されている。『福井県統計書』でも、大正8年度(大正9年3月31日)統計から同じく大野町に創設された私立大野幼稚園とともに掲載されている。

大野幼稚園は『福井県教育百年史』によれば、大野町各宗派寺院の連合会によって大正5年から設立の計画があったものの実現には至らなかったのであるが、大正8年に至って3月30日に設立願書が県庁に提出され、8月認可の運びとなった。これは、旭幼稚園に関する報告の「私たちが幼稚園を開く計画で講義所の修理を始めた時、仏教徒たちはすぐに町全体の子どもたちを個別に訪問して誘い、幼稚園を開いた。¹⁸」から明らかのように、キリスト教幼稚園開園に触発されて一気に大野幼稚園開設となったということである。大野幼稚園は開設当時(大正8年)の保育料が月30銭であり、旭幼稚園は(J.K.U.巻末資料では大正11年のみ記載)月50銭と、不利な状況でのスタートとなった。しかしながら日曜学校の参加者が増え、誕生会、運動会、クリスマスの集いなどの参加者も多いとホームスが報告しているように、大野幼稚園に比して園児数は少ないものの、旭幼稚園はキリスト教信者の子どもやキリスト教保育に賛同する保護者など一定数を確保してきた(表8参照)。

表8 旭幼稚園と大野幼稚園の園児数



4. 禁酒運動とC.P.ホームズ

栄冠幼稚園が園舎を焼失する約3年前の1914(大正3)年10月に、宣教師C.P.ホームズが着任した。ホームズ夫人は幼稚園長として栄冠幼稚園のほか、丸岡の緑幼稚園、敦賀幼稚園(大正5年から休園していたが、大正7年6月に再開した)の運営に携わり、各園の様子をJ.K.U.の年報で報告している¹⁹。

J.K.U.年報第15号(1921(大正10)年)の報告では栄冠幼稚園は、子ども達や卒園児への禁酒教育に重点を置いていた。その結果何軒かの家庭から酒が追放された。また、J.K.U.年報第23号(1929(昭和4)年)でも、幼稚園で酒の害について学んだ子どもが家で父親に断酒を訴え、その熱意に動かされてついに父親が断酒したことをギレスピー²⁰が報告している。禁酒教育は幼稚園だけで行われたものではなく、矯風会の活動等社会でも取り上げられており、福井県で宣教師C.P.ホームズが果たした役割は大きい。その一端を新聞記事より紹介する。

1915(大正14)年10月26日に福井商業高等学校で、「学生と酒」と題する講演がマーク・アール・ショウによって行われ、その講演内容が福井新聞の1面において同年11月2日から7日まで6回にわたって連日紹介された。3回目に当たる11月4日には1面の下半分の広告スペースの一角に、安立宇吉なる者が「自今禁酒」との広告を載せている(図6参照)²¹。

これら一連の報道の反響からか、同紙は大正14年11月21日から12月18日までに3回、C.P.ホームズによる「禁酒問題研究」と題する記事を報じている。

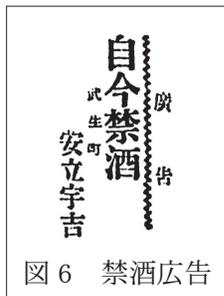


図6 禁酒広告

【福井新聞大正14年11月21日】

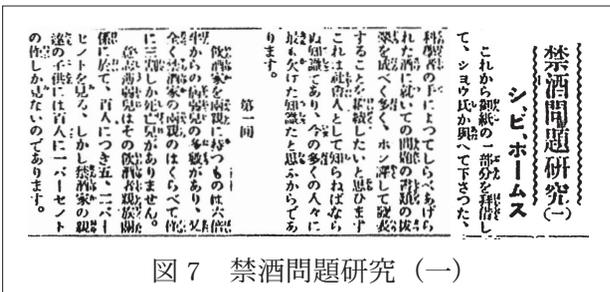


図7 禁酒問題研究(一)

禁酒問題研究(一) シ、ピ、ホームズ

これから御紙の一部を拝借して、ショウ氏が與へて下さつた、科學者の手によつてしらべあげられた酒に就いての問題の書類の抜粋を成べく多く、ホン訳して發表することを繼續したいと思ひますこれは社會人として知らねばならぬ知識であり、今の多くの人々に最も欠けた知識だと思ふからであります。

第一回

飲酒家を兩親に持つものは六倍半からの病弱兒の多數があり、又全く禁酒家の兩親のはくらべて僅に三割しか死亡兒がありません。

意志薄弱兒はその飲酒者親族關係に於て、百人につき五、二パーセントを見る、しかし禁酒家の親たちの子供には百人に一パーセントの僅しか見ないのであります。

次に肺結核症に就いて云ふと、時口飲酒家の子供は、百人につき八、七パーセント。

常習性の飲酒家の子供は十、七パーセント。過度の飲酒家の子供は十六、四パーセント。極度の飲酒家の子供は二十一、七パーセント。正しく、アルコール(ママ)は、最も大きく結核症の病菌に重要な活動する有害な協同者であります。

癲癇又は発狂性の欠陥子供は節酒家の子供百人につき二、三パーセントを占めてゐる。

適度の飲酒家の子供は、四、六パーセント。多量の飲酒家の子供は九、六パーセント。ま酩酊までの大酒家の子供は十九パーセント。アルコールは□□や神経を破□するに手に手をとるものである。

これは或る犬に実験をしたのを見ると、アルコールを飲ませた犬の生んだ狗兒は百につき十七、四パーセントしか育たないが、アルコールを飲まさないとこの犬の生んだ狗兒は九十、二パーセント育つ性能がある。

【福井新聞大正14年12月5日】

禁酒問題研究(二) シ、ピ、ホームズ

第二回

◆飲酒家兩親の不幸である犯罪はこの場合百人につき七十五パーセントである。

◆小供(ママ)にとつて、完全に出生出来る生得権、よく念をかけること完全の訓練をな

すことを飲酒はこれらのすべてをうばつてしまふものである。

◆六十九パーセントからの才能ある身体を有する人が、その持続を欠乏さすは如何といふに、それらの家族に強い酒飲みがあるに因るのである。

◆各々三人の夫と離婚した例があるが、それは薄情の大的のんだくれであつたからである。アルコールは家庭の難である。

◆四十パーセントといふものはこの場合、アルコールは背徳に支口つてゐる。

◆アルコールの第一の効力は、能力・克己とを損傷しそして又、自制をゆるめる。

◆アルコールは買得業には、欠くべからざる使薬である。

◆少しづつ癖にして酒飲む労働者は毎日八、七パーセントの効力を減退しつゝあり、飲み癖の職人は日々、思ひに骨折ることを酒が助けてゐる。

◆禁酒者の工場における仕事に対しての事故は飲酒者よりも更に三分の一よりも少ない。

◆アルコールによつて慢性病となつたものの死体解剖の試験に見出すものは次の結果に相当する心臓病九十パーセント、肝臓病八十パーセント、胃の炎症五〇パーセント。

◆飲酒の平均して最も大きな病口をもつは保険記録がそれを表はしてゐる。それは二十五歳から四十四歳までの飲酒家は普通の保険する人々の二、七倍の病口のあるものは屢々である。

◆飲酒家の病死者は平均、一般保険者の即ち二倍半である。(十二月二日訳)

【福井新聞大正14年12月18日】

禁酒問題研究(三) シ、ピ、ホームス

第三回

アルコールによつて肺炎で死口その増大する割合は、禁酒者の肺炎をわずらふ者のうち十八、五パーセントの死。節酒家の肺炎患者で死すものは二五パーセント。過度の飲酒家の肺炎を病む者の中、死者五二、八パーセント。

九年間にアルコール中毒で死んだ者は、チブスと疱瘡で死んだ者よりももつと多い。

千五百三人を乗船した汽船タイタニック号は、座礁したその年、千五百三人の男女は飲酒のため八日間しか命が保たれなかった。

人間がアルコールを病気の原因にして死ぬ必要はない。疱瘡又はチブスは知らずして誰でも病気を起こすが、アルコールを飲むことを誰も知らずにする者はない。

十年間に一万四千四百十一人の自殺者は如何にして死んだといふにアルコールが貢献してゐる。

保険記録の見せる飲酒の寿命を縮めたものは十一パーセント。禁酒家は非禁酒家に対して何れの点に於てもその働きの上に、男女を問はず優良な成績を作つてゐる。

各四人の中、發狂した一人彼は發狂、飲酒を支拂つた。

北米合衆国では毎年、アルコールのために發狂者の厄介に五百三十三万二千四〇七圓の代価を拂つていた。

禁酒家は彼の動作をなす前に考慮し、飲酒家は彼の思考よりも成すことを先にする。

独逸ハイドバークに於ける飲酒によれる暴行(殺人)の統計。サロン(酒場)の犯罪、六六、五パーセント。街路にての犯罪、七、八パーセント。家庭にての犯罪、七、七パーセント。不知口では九、二パーセント。

飲酒に支拂ふための貧困は二五パーセント。飲酒に支拂つたゝめの乞食は三七パーセント。飲酒のための小兒の不幸は四五、八パーセント。飲酒して發狂二五パーセント。飲酒による犯罪五〇パーセント。飲酒の原因する離婚一九、五パーセント。

アルコールの問題さへ解決すれば、其処に残る他の社会生活問題は穩かに解決するであらう。併して尚且、真に今日この口物だけ解決すれば、他の問題も解決出来なくない。何時か安寧を所持し得る前途の望みが安全に有効に由り来るであらう。アルコールの問題の解決は飲酒家庭の不幸が大原因である。

飲酒四六パーセント。不道德十四パーセント。病氣十二パーセント。

英国のジョージ王が彼の国民に第一に勅された制令は「²²名誉ある国民の源泉は人々の

家庭に置くにある。併して吾々の社会に泰然とした唯一のファミリライフを所有するであらう。それは国民が剛健で、単純で、しかして潔白なることでもある。

何れの市でも子供の環境を支へるに相當するやうに、家庭にはそれに全ての代価__拂はすことゝ誇り高いことゝ□□してゐるであらう。それは、誰でも幼少のとき人格品性を作ることには家庭に多大の効果□あるのゝ□□である。

飲酒は世界のどの國民でも家庭を破壊する
(十二月十五日記)

ホームス夫人らが幼稚園教育の中で禁酒を子どもに教えることと連動して、市民には宣教師であるホームスが禁酒運動の普及に尽力したのであろう。

宣教師C.P.ホームスは1914年から1937年までの25年間、福井の地にあつて伝道に従事し人々と交わりの時を持っていた。上記の禁酒問題研究会の発足と酒の害を科学的に訴える説明は、教会内部を超えた市民・県民への強いメッセージとなっている。それを福井新聞が掲載したのは、福井商業高等学校での「学生と酒」の講演とそれに続く概要を紹介する記事の流れを受けたものであろう。ホームスは大正3年の着任以来、自身の子どもを通じて市民と親しむ機会も多く、新聞に掲載を依頼されるほどに周知されていた。福井着任11年目の1925年12月19日には、「吹雪の夜 南國の話」との見出しで、17日夜にホームス邸で21名が参加した火曜倶楽部²³が開かれたこと、翌年の2月で発足1周年になることなどが掲載された。さらに12月25日に「國際連盟とクリスマス」(12月23日)と題する記事も掲載されるなど、福井新聞との良好な関係が見て取れる。

5. 終わりに

本稿においては新聞や統計書の資料から、J.K.U.に記載された女性宣教師の幼稚園事業に関する報告の関連事項と、そこから派生するいくつかのトピックスを中心に、時代の動きを追ってきた。それにより、明治末期から大正半ばにかけて、福井県の幼児教育は主にキリスト教と仏教の二大宗派の幼稚園の設置により、進められてきたことを再確認した。さらに、私立幼稚園として先

に幼児教育を開始したキリスト教幼稚園が、一定の評価を得るものの仏教が盛んな地にあつて園児はあまり増えず、中には廃園に至った幼稚園もある。我が子に幼児教育を受けさせたいと思いながら、キリスト教幼稚園であるからと就園をとどまっていた保護者が多くいた実態が明らかとなった。そのような困難な時もキリスト教の伝道と保育を行ってきた宣教師たちの熱意に、改めて敬服の念を抱かざるを得ない。しかし、キリスト教だからといって、いつまでも敬遠されていたわけではない。むしろ好意的に紙面に発言の場を与えられていたことがC.P.ホームス氏の記事から読み取れる。今後さらに年代と地域を広げながら、今後資料の整理と未確認部分の調査を行うこととしたい。

<注・参考・引用文献>

1. 児玉衣子・菅原創・上垣信子「聞き書き 北陸地方のキリスト教保育史(1) 福井県」『北陸学院短期大学紀要』2000年 第32号 p1-23
 児玉衣子「聞き書き 石川県のキリスト教保育を担った人々(1) 付:JKU年報1-5号にみる北陸地方の記録」『北陸学院短期大学紀要』2002年 第34号 p1-20
2. 児玉衣子「北陸地方のキリスト教保育史—JKU年報から(2)—」『北陸学院短期大学紀要』2003年第35号 p1-12
 児玉衣子・菅原創・上垣信子「聞き書き 北陸地方のキリスト教保育史(1) 福井県」『北陸学院短期大学紀要』2000年 第32号 p20
3. 『福井県教育百年史』第5章 幼児教育の創始 第2節「私立幼稚園の創設」昭和53年 p888
4. 『福井県百年史 通史1』第六章 幼児教育の拡充 第一節 拡充を目ざして 2 私立幼稚園の拡充設置及び経営 二 私立幼稚園の設置 昭和63年 p1191
5. 福井県 ホームページ デジタルアーカイブス <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/archive.html> アクセス 2013年9月20日
6. 児玉衣子・菅原創・上垣信子「聞き書き 北陸地方のキリスト教保育史(1) 福井県」『北陸学院短期大学紀要』2000年第32号 p20
7. これについては、富山県でも同様な現象が生じている。

- 富山市の北陸女学校第二幼稚園が閉園した理由は不明となっており、記念誌などにも記されていない。考えられるのは、園の近くに新たに仏教系幼稚園が開設され、自園の園児を奪っていったという記録から判断して、園児減少によるものであろう。
- 拙著「北陸地方のキリスト教保育史－JKU年報からの翻訳と解説(4)－」『北陸学院短期大学紀要』2007年第39号 p90参照。
8. 他の園の保育料、例えば、8年後の大正12年の記録にある小浜のメゾヂスト西津幼稚園の保育料が50銭であることから、保育料が高いということがわかる。
 9. 『福井県百年史 通史1』第六章 幼児教育の拡充 昭和63年 p1191～1192
 10. 児玉衣子「聞き書き 石川県のキリスト教保育を担った人々(1)付:JKU年報1-5号にみる北陸地方の記録」『北陸学院短期大学紀要』2002年 第34号 p19
 11. 『福井市教育五十年史』大正12年の項
 12. 児玉衣子「北陸地方のキリスト教保育史—JKU年報から(2)—」『北陸学院短期大学紀要』2003年 第35号 p7
 13. 10段の紙面中3段組みで大きく写真のスペースが取られている。写真には、装飾されたクリスマスツリーとその前に立つサンタクロースの姿があるが、保存新聞のコピー状態が悪いため、再掲はしていない。
 14. 【福井新聞 大正14年12月19日】には、「降誕祭や年末と子供の教育—物を與へるについて充分の注意をせよ—」と題し、文学士岩見治三郎が、サンタクロースの由来を説明し、教育的観点から子供に物を買わせる親への注意を促している。また、【福井新聞 大正14年12月23日】には、「クリスマスとサンタクロース それにはこんな物語と教訓があります—」の記事がある。福井新聞の記者が岩見氏を訪ねてサンタクロースの話聞いて紹介するという形で、2回にわたってクリスマスのプレゼントについて一考を促すものである。
 15. 栄冠幼稚園の沿革、年表では、1月と記されている。日付は記されていない。
 16. 『福井県教育百年史』[514 幼稚園概況] p1049
 17. 山森泉 児玉衣子「北陸地方のキリスト教保育史—JKU年報からの翻訳と解説(4)－」『北陸学院短期大学紀要』2007年 第39号 p94
 18. 注17と同じ p95
 19. 注17と同じ p94
 20. 栄冠幼稚園誌『神さまありがとう』の歴代園長名簿に、ミセス・ホームスは、大正3年10月から大正11年3月、ミス・ステープルスが大正11年4月から大正15年7月、ミス・ギレスピーは大正15年9月から昭和5年3月までと記されている。
拙著「北陸地方のキリスト教保育史—JKU年報からの翻訳と解説(6)－」『北陸学院大学・北陸学院短期大学部研究紀要』2010年 第2号第1分冊 p78
 21. 人物については未確認。ただ、明治期より個人名で広告を出す例が散見されている。
 22. “J”が記されていないが、「～潔白なることでもある」までか。
 23. 会の詳細は未確認。菱本幹事の挨拶、有志の愛唱、伴東君の長崎の三大行事の話、南極の話、ピアノ演奏などがあったと記されている。